

学 校 名：福岡県立西田川高等学校
 校 長 名：金子 洋 一
 所 在 地：福岡県田川市上本町7番11号
 電 話 番 号：0947-44-0313
 研究担当者：木村 孝二

1 学校の概要

(1) 学校の特徴

本校では就職試験・公務員試験の合格率向上のため様々な取組を行っており、福岡県下では、公務員試験の合格率が高い学校の一つである。地域ではそのことへの評価も高く、公務員を志望する生徒も本校へ入学してきている。また、部活動入部率も50%近くあり、活発な部活動が展開されている。

(2) 学校概要 (平成17年5月1日現在)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	200	5	199	5	197	5			596	15
	計	200	5	199	5	197	5			596	15

(3) 学校の学習意欲・学力向上に関するこれまでの取組

- ア 落ち着いた学習環境設定のため、始業前に1分間の「黙想」の取組。
- イ 進路意識を高めるため、進路意識調査の実施。
- ウ 進路希望別に対応した教育課程の類型編成。
- エ 進路希望別に対応した選択授業及び少人数指導や習熟度別授業編成。
- オ 進学希望者や公務員希望者に対して、課外授業の実施及び外部模試の実施。
- カ 休業土曜日に自学自習形式の高羽学習会を実施。
- キ 『学習の手引』（シラバス）の活用。
- ク 各種検定試験の実施。
- ケ サマースクールの実施。
- コ 進学説明会（生徒、保護者対象）の実施。
- サ ヤングワーク福岡の活用。
- シ 小論文指導。
- ス 成績不振者に対する『補講』の実施。

(4) 教育課題

基本的な学力や社会的なマナーを生徒に身につけさせるとともに、自ら目標を立てて実践し、自信を深めることで進路達成と自己実現とをめざす生徒を育成する。

2 研究の概要

(1) 研究主題

学習意欲向上の方策と学力向上の方策についての研究。

(2) 研究のねらい

本校において明確な目的意識を持っているかについて調査研究を行い、「総合的な学習の時間」における進路別研究や生徒による「自学の記録」の取組及び進路意識調査等の様々な取組をとおして、生徒の進路目標を明確化することにより、学習意欲の向上を図る。また、単語テスト、資格取得の促進等の取組をとおしての自尊感情の高揚を図り、さらなる学習意欲の向上に努める。

(3) 研究組織

教務主任、進路指導主事、各学年主任及び学年担当者の計8名で組織した。

(4) 3年間の研究の実際

① 平成15年度

- ア 教育課程を見直し、新たな類型別クラス編成を行った。
- イ 目的意識調査・進路意識調査を定期的に行い、学習意欲の向上との相関関係を調べた。
- ウ 基礎学力の向上策として、実力テストを有効活用することとし、その具体的な内容について検討した。
- エ 学校視察を行い、(基礎)学力向上にむけての取組を調査した。
- オ 「学習の手引き」(シラバス)の内容の精選を行った。

② 平成16年度

- ア 目的意識調査・進路意識調査を継続して行い、学習意欲の向上との相関関係調査を深めた。
- イ 外部模試、公務員模試、校内の定期考査等による生徒一人ひとりの学力を追跡調査を行った。また、資格取得による学力向上への影響や進路目標達成への影響を調査した。
- ウ 基礎学力の向上策として、定期考査終了後に「訂正ノート」を作成するよう指導を行った。
- エ 学校視察を行い、(基礎)学力向上にむけての取組を調査した。
- オ 「学習の手引き」(シラバス)を利用した学習前オリエンテーションの在り方を研究・調査した。
- カ 国語科において俳句・短歌コンクール等への参加を奨励し、生徒が成功体験を得られるよう指導を行った。

表1

飲料品メーカーの俳句コンクールへの投稿結果

年度	佳作特選	佳作入選
H15	5名	6名
H16	6名	57名

③ 平成17年度

ア 進路目標を1年次より明確に持っている生徒が、進路実現ができてきているかどうか調査する。

イ 学校への満足度について、生徒に対してアンケート調査する。

ウ 平成15年度入学生の取組について、以後の学年において、一層効果的に実施できるよう工夫を行った。具体的には、フィードバック形式の実力考査の問題を作成するに当たって、各教科では問題の内容を精選し、基礎学力の向上に有効な出題方法を心がけることとした。

エ 「総合的な学習の時間」の内容について、今年度までの実施内容をキャリア教育の視点から再検討を行い、一層の効果的実施をめざす。

(5) 教材、資料等の作成状況

ア 生徒に「自学の記録」を作成させ、学習時間等に対する自主的な取組を促した。

イ 「学習の手引き」(シラバス)を作成した。

ウ 生徒に「訂正ノート」を作成させ、定期考査終了後に解答の訂正をさせ、学力の定着とともに基礎力向上を図った。

エ 「総合的な学習の時間」における進路別研究のためのプリント教材を作成した。

オ 校内掲示板を設置し、部活動等の大会結果や検定試験の日程、学校行事の予定等について生徒への広報に努めた。

カ 「進路ニュース」を作成して、進路意識の高揚に努めた。

キ 学校新聞を作成し、部活動等の大会結果を広く地域や保護者などへ知らせた。

3 研究に対する評価

(1) 研究の成果

ア 平成15年度入学生に対する基礎学力の向上策として、フィードバック形式の実力考査を行うこととし、また、同様に「訂正ノート」を作成させた。「訂正ノート」の作成は、実力考査に向けた学習を充実させるためのものであったが、この取組を通して、定期考査前に加え、事後の指導の充実がはかられ、また、いわゆる「学習スキル」の獲得において効果があった。

イ 各種資格取得の奨励をおこなった。従来は教科主導であった検定試験に向けた取組を、学年主導の形に切り替えた。具体的には、各種検定試験の周知を学年通信や学年掲示板を利用したり、週末課題の内容を学年で検討するなどした。その結果、第1学年では学年全体での検定試験への参加が円滑に行われ、資格取得者数の増加にとどまらず、難関資格への合格を果たすという成果があった。

表2 英語検定

年度	準2級	3級
H15	6	26
H16	2	62

表3 漢字検定

年度	2級	準2級	3級
H15		37	26
H16	5	33	62

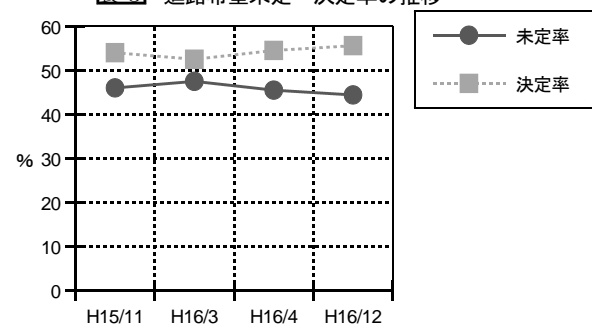
表4 ワープロ検定

年度	2級	準2級	3級	4級
H15		6	21	3
H16	6	7	22	7

ウ 「総合的な学習の時間」における進路研究を通して、生徒の進路意識が高揚している。特に、平成15年度入学生に対し2年次の6月に行った「進路体験」は、大きな影響を与えていることが、事後の指導を通して明らかになった。

また、この「進路体験」では、生徒が感想や意見・新たな決意を多く持った。

表5 進路希望未定・決定率の推移



エ 進路意識の高揚と学習意欲の向上とにおける相関関係については、進路希望が決定している生徒の学習意欲は、進路希望が未決定である生徒に対して常に上回っているということが、定期考査等のデータを比較することで明らかになった。

(2) 問題点及び今後の課題

ア フィードバック形式の実力考査実施や「訂正ノート」の作成について、各教科の特性等の理由から、現在その有効性が明らかであるとそうでない教科とに分かれている。問題作成における工夫や「訂正ノート」の作成指導を充実させるなどの取組が必要である。

イ 進路意識の高揚と学習意欲の向上とにおける相関関係は明らかになったが、進路希望を決定することができない生徒に対しての意識高揚策を新たに打ち出せずにいる。「総合的な学習の時間」と連携した意識高揚に取り組んできたが、さらに、きめの細かい方策を検討することが急がれる。

ウ この3年間、本事業において各高等学校のさまざまな取組が報告された。本校においても取組を検討している事例が多くあるが、取組に対する姿勢や円滑な実施について本校独自の検討を十分に行わなければならない。